

国有林野 事業の取組

東北森林管理局

白神山地世界遺産地域周辺の 自然再生を目指して

— 自然再生計画の策定と自然再生マップの普及 —

1 はじめに

林野庁では、白神山地を原生的な状態で保存し、自然環境の維持・動植物の保護等を図るため、平成二年に青森県と秋田県の県境にまたがる国有林約一万畝を「白神山地森林生態系保護地域」に指定しました。また、平成五年には、屋久島とともに同山地がユネスコの世界自然遺産に登録されています。

近年、白神山地周辺において、ボランティア等による「自然再生活動」が進められていることから、こうした活動に対する支援を行うため、津軽白神森林環境保全ふれあいセン

ターを平成一八年四月に設置しました。

その後、東北森林管理局では学識経験者やボランティア団体等で構成する「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」を平成一九年度に設置し、白神山地世界自然遺産地域周辺で進められているボランティア活動の現状や課題を整理するとともに、ボランティア団体の新規参入を促進するため、自然再生の対象となる現地を分かり易く紹介するツールの必要性等について議論を重ねてきました。

そして、平成二〇年度には、学識経験者からなる「検討委員会」を設

置し、「白神山地周辺地域自然再生計画書」（自然再生マップ）を策定しました。

2 自然再生マップ

① これまでの自然再生活動

最も早く自然再生活動に取り組んだのは平成一年の日本山岳会青森支部による「白神山地ブナ林再生事業」です。また、平成一二年には青森県ユネスコ協会が「ユネ



スコの森」を設定、翌年には鱈ヶ沢町と白神山地を守る会が「白神山地ブナフェスティバル in 赤石川」を開催、続いて平成一五年には赤石川を守る会が「広葉樹の森づくり」をスタートしました。この赤石川を守る会は本年五月「国民の森林づくり」推進功労者として林野庁長官から感謝状が贈呈されています。また、こうした取組以外にも多彩な団体が自然再生に向けた活動を継続して実施しています。

② 自然再生計画書（自然再生マップ）の内容

○計画の対象

白神山地周辺に分布するスギ人工林一、二一七箇所を対象区域とし、うち一七箇所（一箇所の面積は三〇〇〜三二〇）を選定しています。

○目標

短期（約五年後）、中期（約三〇年後）、長期（約一〇〇年後）の視点に立ち、



自然再生計画の位置図

「多様な樹種の混成する広葉樹林」に段階的に移行・再生することを目標としています。

○自然再生の方針

- ・選定した一七箇所の地域毎の自然再生の方針は
 - ・赤石川上流：スギの強度な抜き伐りとする切等の最小限の施業
 - ・赤石川下流：スギの抜き伐りによる広葉樹の侵入促進
 - ・暗門川：スギの抜き伐りとブナ等広葉樹の植栽
- となっております。

③ 自然再生マップの作成

今回、自然再生マップを作成するきっかけとなったのは、白神山地での自然再生活動を希望する方々に、現地までの所要時間や、どのような場所（傾斜や林道までの時間）でどのような作業（抜き伐り・植栽等）が可能なのかを提示し、地図と三次元による映像で現地を紹介できた、という意見からでした。このためパソコン上で現地の状況や将来の姿が分かるよう、自然再生マップを作成しました。

ブナ等の多様な広葉樹林に戻そう。そうして、一〇〇年後を目指して、世界自然遺産地域の登録面積を増やしていこう」こうした威勢のよい地元の呼びかけもあって自然再生計画の検討が始まり、その手段としての自然再生マップが完成しました。

弘前大学の牧田名誉教授をはじめ検討委員会の皆様に感謝するとともに、たくさんの方々のボランティアの方々が自然再生マップを活用することを願っています。

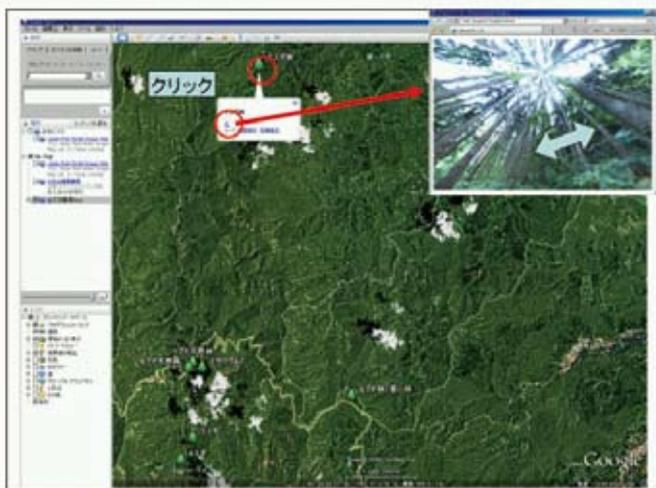
3 シンポジウムの開催

こうした自然再生マップを多くの皆さんに知っていただくため、本年九月に青森県鱈ヶ沢町でシンポジウムを開催するとともに、自然再生マップに表示した森林の見学会を現地で行うこととしています。

4 おわりに

「白神山地の周辺地域も

自然再生マップの例



全天空画像（ロケーションビューアジア航測）